

放射能はコントロール不能!

原子力安全・保安院は4月12日「福島第一原発事故の深刻度を、国際評価尺度でチェルノブイリ原発事故と同じ『レベル7（深刻な事故）』とすると発表しました。国際評価であるから「地球規模で最悪の事故」と日本自ら認めたということであり、その影響は世界に及ぶということです。しかし今「事故レベル」は問題ではありません。起きている現実が問題なのです。放射能を含んだ水の海への放水、東京都（都だけではない）の水道水からの基準を超える放射能物質の検出、アメリカ・カリフォルニアまで飛んだ放射性ヨウ素、福島第一原発周辺で採れた野菜や水揚げされた魚介類が売れない、それは単に風評被害で済むのか・・・？。

地震の巢の上に国土を持つ日本で、ひとたび地震が起これば「想定外」の事態が起こるのはいたしかたない面もあります。しかし「想定外の地震が起きたから、原発事故も致し方ないのだ」では済まされません。東京電力や政府は地震に起因する放射能漏れについて「直ちに健康に影響を及ぼさない」など見解を示していますが、中長期的にはどうなのかは示していません。同じ「レベル7」の事故（1986年）だったチェルノブイリ原発周辺では現在、事故当時子供だった人々の癌発症率高いといわれています。さらに経済的には、東北地方太平洋沖地震に起因する被害の復興には10兆円かかる（それで済むのか）といわれています。



原子力発電と「自然と人間」は共生できないのは明らかです。50基以上ある日本の原発の安全性を今より高めるより、原発に頼らな生活スタイルと原発全廃に向けた道を今から探るべきです。

原発の安全性を高める議論より、
原子炉全廃の道を探るべきだ!